

地名の由来となった

## 桑園の桑の木

明治時代に、中央区で養蚕業が盛んだったことを知っていますか。その時代のエピソード、「桑園の桑の木」について紹介します。

「桑園」の地名の由来となった桑の木。

この地域に初めて桑の木が植えられたのは、明治八年（一八七五年）にまでさかのぼります。

養蚕を奨励する開拓使は、南一条から北、西八丁目から西の地域を桑畑にするため、旧庄内藩（今の山形県）の士族に二十一万坪の土地を開墾させ、翌年桑の苗木を植えました。そして、この桑畑のある地域を「桑園」と呼ぶようになりました。

現在、桑園地区にこの開拓当時から桑の木は残っているのでしょうか。

確かに、桑園地区には知事公館や気象台、北大植木園の敷地内にある桑の木をはじめとして、区内で唯一の「桑の街路樹」（JR桑園駅北側の西一五丁目東側歩道）や桑園小学校の児童が「カイコ」の観察

・飼育に活用している校木の桑の木などがあります。しかし、施設の関係者や地区の古老に聞いても、開拓当時にしのぶ樹齢百年以上の桑の古木はどこにも残っていないようです。

明治のころに広大な畑で栽培されていた桑の木も、今は新たに植えられた木で当時をしのぶだけになっています。

（平成五年八月号・第三回）



開拓者の苦勞をしのんで3年に一度行われている「桑園開拓まつり」